



平成 28 年 5 月 18 日

各 位

会 社 名： ア サ ヒ 衛 陶 株 式 会 社
代 表 者 名： 取 締 役 社 長 町 元 孝 二
(コード番号： 5341 東証第二部)

問 合 せ 先： 執 行 役 員 丹 司 恭 一
企 画 管 理 部 長

電 話 番 号： 072-362-5235

第 2 四半期業績予想及び通期業績予想の修正 並びに特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 28 年 1 月 19 日に公表いたしました平成 28 年 11 月期第 2 四半期業績予想及び平成 28 年 11 月期通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

また、平成 28 年 11 月期の連結決算及び個別決算において、特別損失を計上する見込みとなりましたので、合わせてお知らせいたします。

記

1. 平成 28 年 11 月期第 2 四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成 27 年 12 月 1 日～平成 28 年 5 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半 期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 1,650	百万円 0	百万円 3	百万円 △5	円 銭 △0.35
今回修正予想(B)	1,430	△90	△90	△120	△8.30
増減額(B-A)	△220	△90	△93	△115	
増減率(%)	△13.3	—	—	—	
(ご参考)前第 2 四 半期実績 (平成 27 年 11 月期 第 2 四半期)	1,474	△26	△18	△42	△2.92

2. 通期連結業績予想の修正

平成 28 年 11 月期通期(連結)業績予想数値の修正(平成 27 年 12 月 1 日～平成 28 年 11 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 3,430	百万円 30	百万円 25	百万円 10	円 銭 0.69
今回修正予想(B)	3,050	△115	△130	△185	△12.79
増減額(B-A)	△380	△145	△155	△195	
増減率(%)	△11.1	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 27 年 11 月 期)	2,832	△116	△114	△136	△9.45

3. 第 2 四半期連結業績予想修正の理由

前回発表予想時に織り込んでいたインバウンド需要の取り込みが訪日外国人観光客の消費動向の変化により期待されたほどの成果を得ることが出来なかったこと及び洗面台フォトドレッサー等の新商品の需要開拓が想定より遅れていることに加えて、新規販路開拓についても受注を獲得できているものの、契約内容の詳細決定に時間を要した等により商品の納入時期が後ろにずれ込んでいることから、売上高の予想を前回発表予想時と比べて下方修正することとなりました。

また、上述の売上高の減少に加え、コスト削減効果を見込んでいたベトナムの人工大理石工場の本格稼働が当初予定より遅れたこと等により、前回発表予想時と比べ営業利益・経常利益の減少が見込まれ、さらに繰延税金資産の取り崩しに伴う法人税等の計上が約 23 百万円見込まれることから、親会社株主に帰属する四半期純利益についても下方修正をすることとなりました。

4. 通期連結業績予想修正の理由

下期については上記の新規販路開拓先への商品納入が第 4 四半期より開始されること及び第 3 四半期からベトナムの人工大理石工場が本格稼働することに伴うコスト削減等により売上と利益の改善が見込まれるものの、上記 3. に記載されているとおり前回発表予想時に織り込んでいたほど新規販売先の獲得ができない見込みであることに加え、本日公表しております本社移転及び開発本部・物流機能集約に伴い特別損失が約 50 百万円発生すると見込まれているため、通期の連結業績予想についても売上高・利益ともに前回発表予想時と比べて下方修正を行うこととなりました。

現状は上記に記載のとおり厳しい状況ではありますが、このような状況を打開するために本事業年度の後半より以下のような施策を行っていく所存であります。

① 販売拡大施策

- ・大手ハウスメーカーのグループ会社や電機系金融事業会社のグループ会社が運営する介護施設事業向けに福祉用の洗面化粧台及びトイレセットの受注を獲得し、販売の拡大を図って参ります。

- ・福祉事業者向けやハウスメーカー向けに、昨年末より操業を開始したベトナムの人工大理石工場で生産した天板を使用したオリジナルの洗面化粧台の販売を行って参ります。

- ・中国、タイに代理店を設置し、現地向けの既存商品の販売拡大を図っていくとともに、中国向けの福祉関連商品の販売や台湾でのライセンス販売など、国際事業の拡大を図って参ります。

- ・新たにキッチン事業を立ち上げ、大手ホームセンター向けに普及型・公団型キッチンの提案を行うなど販売の拡大に努めて参ります。

② コスト削減施策

- ・現在本社、香川及び外注加工先で行っている組立加工業務と本社と香川の2拠点に分散している物流業務を香川事業所に移管・集約し、遊休スペースがある香川事業所に開発本部及び物流の機能を集約することで、生産・物流・開発機能の効率化、コストの削減及び保有資産の有効活用を図って参ります。また、本社機能と大阪支店を大阪市中心部に移転させることで、営業活動の効率性の向上と人材採用の強化などを行って参ります。

- ・昨年末より操業を開始したベトナムの人工大理石工場での天板生産を下期より本格化することにより、従来の仕入先からの調達より低コストで洗面化粧台用天板の調達が可能となります。さらに、人工大理石の生産に使用する原材料の見直しを行うことで、更なるコストの削減を図って参ります。また、温水洗浄便座の調達コストについても削減を図って参ります。

5. 平成 28 年 11 月期第 2 四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成 27 年 12 月 1 日～平成 28 年 5 月 31 日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 1,620	百万円 3	百万円 △5	百万円 △0.35
今回修正予想(B)	1,410	△90	△120	△8.30
増減額(B-A)	△210	△93	△115	
増減率(%)	△13.0	—	—	
(ご参考)前第 2 四半期実績 (平成 27 年 11 月期第 2 四半期)	1,453	△18	△41	△2.89

6. 通期個別業績予想の修正

平成 28 年 11 月期通期(個別)業績予想数値の修正(平成 27 年 12 月 1 日～平成 28 年 11 月 30 日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 3,300	百万円 25	百万円 10	百万円 0.69
今回修正予想(B)	3,000	△130	△185	△12.79
増減額(B-A)	△300	△155	△195	
増減率(%)	△9.1	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 27 年 11 月期)	2,809	△113	△135	△9.36

7. 第 2 四半期及び通期個別業績予想修正の理由

上記の第 2 四半期及び通期連結業績予想の修正と同様の理由により、第 2 四半期及び通期個別業績予想についても修正を行う必要が生じたことによるものであります。

8. 特別損失の計上について

本日公表しております本社移転及び開発本部・物流機能集約により、平成 28 年 11 月期連結決算及び個別決算において、移転に伴う一時費用約 50 百万円を特別損失に計上する見込みであります。

※上記の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものです。

予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

以 上